地域人 vol.27

地域を守り育む人たち

「郷土の歴史遺物の再利用 ～そして未来へ向けて」

郷土史愛好家　楫ヶ瀬　孝（かじがせ　たかし）

今回の「地域人」は、郷土史愛好家・楫ヶ瀬 孝さんをご紹介します。

活動のきっかけ

長年、病院で臨床検査技師として勤務しましたが、退職を期に生まれ育った地元に何か恩返しがしたいと考えた結果、現在は２つの大きな活動を行っています。

一つ目は石見神楽の蛇胴を用いた和紙製品作り、二つ目は日本遺産（北前船寄港地）の追加認定を目指す取り組みです。

焼却されていた蛇胴が姿を新たに

ご存じの方もおられると思いますが、石見神楽の蛇胴は浜田市三隅町を中心に製造されている石州和紙を何枚も貼り合わせて作られています。この和紙はとても頑丈で、三重に貼り合わされた和紙はミシンで糸が縫えるほど頑丈です。60回程度舞台で使用された蛇胴は、やがて練習用になり、最後は焼却処分となるのが一般的でした。大蛇鱗の美しい模様や、風情のある色彩の蛇胴が焼却されるのは勿体ないと考え、何かに利用できないかと思案した結果、小物入れなどに再利用しようと思い立ちました。

試行錯誤し、家内の意見も聞きながら苦労して作成しましたが、今では手提げ袋や名刺入れ、財布（お札入れ）などバリエーションも増やしていくことができました。

一番嬉しかったのは蛇胴を製作される方から、「焼却されるだけの蛇胴が、使ってもらえるものに生まれかわるは嬉しい。120年目の進歩です」と言ってもらえたことです。私の大好きな石見神楽が繁栄していけば、役目を終えた蛇胴の数も増えてきます。私は神楽舞を遠くから眺めていた大蛇が姿を変え、一般の方々に柄として、石州和紙として触れてもらえるように工夫しました。蛇胴は私一人の物でもありませんし、関心のある人が色々と試行錯誤されて、この石見神楽のヒーロー「大蛇」が皆さんに愛して貰えるようになることを願っています。

外ノ浦湊の歴史をつなぐ活動

我が家のある外ノ浦（とのうら）湊は、祖父の代まで廻船問屋として北前船との商いを行っていたこともあり、我が家には関連書物数点が伝来しています。また、自宅の納屋を解体中に出てきた屏風の裏紙に、問屋当時の帳面などが使用されているのも見つかりました。外ノ浦湊は、江戸時代の北前船の寄港地で、浜田市が日本遺産の追加認定を目指しています。

外ノ浦湊は藩政時代、浜田市の表玄関でしたが、現存している資料が乏しく、郷土史家を訪ね、教えを請うたりして文書に残し、後世にバトンが渡せるよう活動しています。その中で、浜田市が日本遺産の追加登録を目指しているとわかりました。以前より、外ノ浦湊を対象とした発表や講演を行ってきたこともあり、非常にやりがいをもって研究活動をしています。これからも少しでも外ノ浦湊を知ってもらえるよう頑張っていきたいと思います。

最後に一句。

「インタビュー　語り尽くして　冬に入る」

～取材を終えて～

ご夫婦一緒に取材対応していただきました。屋外は風の強い冬の天気でしたが、屋内は暖かで緩やかな時間が流れており、予定時間を大幅に超えてしまいました。これからも仲良く活動を続けることができるようお祈りいたします。

古くなった蛇胴を加工する様子

外ノ浦湊の景色